

半崎 輝さん 小説「痕」 第22回 北区内田康夫ミステリー文学賞 審査員特別賞



受賞作掲載誌「扉」



徳島文学協会会員の半崎輝さんが、小説「痕」で第二十二回北区内田康夫ミステリー文学賞審査員特別賞を受賞した。

同賞は東京都北区の知名度を高め文化的イメージを強めるため、平成八年より北区アンバサダー（大使）として活動された作家の故内田康夫氏の協力のもと創設され、第二十二回は一八二編の応募があった。

作品は北区が作成したブックレット「扉」のほか、「Webシェイノベル」（実業之日本社）に掲載されている。

<https://j-nbooks.jp/novel/original.php?okey=113>

近況ご報告

半崎 輝

私が小説を書き始めたのは五十七歳からです。都会に住んでいれば、カルチャーセンターで小説作法を勉強できるのにと、書き方を学ぶ機会が無いことを理由に手を付けずにおりました。しかしある日、四国大学、佐々木義登先生が市民向けに小説執筆講座（平日の午後、週一回、二時間の講義を十回）を開講していることを知りました。もう、言い逃れはできない。腹をくくり半日の休暇をとり、毎回欠かさずに出席しました。そこで先ず、小説の読み方を学びました。それから、佐々木先生から、「小説は誰でも書ける、執筆は刀鍛冶のようなもので地味な努力の積み重ねです」と教えられました。徳島文学協会入会後は、協会に集う皆様から、創作に真剣に向き合うこと、創作の厳しさを教えていただきました。感謝申し上げます。

今回、冊子掲載に当たり、出版社の編集の方が付いて下さり、作品の矛盾点や誤記を鋭く指摘いただき、何度となく校正をしていただきました。大変参考になりました。書けば書くほど、圧倒的に少ない読書量を痛感します。

今回、賞を頂きましたが、それに関わらず、私は槌を振るうことを止めないと思います。

藤代淑子さん小説「聖夜」

『三田文学』に掲載

第二十二回三田文学新人賞奨励賞受賞の徳島文学協会会員、藤代淑子さんの受賞後第一作目の小説作品「聖夜」が『三田文学』No.156（二〇二四年冬季号）に掲載された。

<https://www.mitabungaku.jp/backnumber156.html>



うっかりさん詩歌文集刊行 『樗になれる気がしている』

徳島文学協会会員、うっかりさんの詩歌文集『樗になれる気がしている』が、百匹ブックスより七月二十八日に刊行される。

<https://inumachi.main.jp/hyappiki-books/>



定価 1600円＋税
新書版(170×105mm)
242ページ／並製

徳島文学七号

発刊しました

『徳島文学』第七号が五月に発刊されました。

『徳島文学』は今号から大きな路線変更を行います。これまで地方から発刊する総合文芸雑誌とうたってきましたが、今号からは徳島文学協会の同人雑誌という位置付けになりました。

同人雑誌になったことで、今後は『季刊文科』や『文芸思潮』、『三田文学』などの中央の文芸雑誌の同人雑誌評の俎上に乗せていただくことが可能になりました。(ただし、慶應義塾大学文学部准教授の加藤有佳織氏と、徳島文学協会の佐々木義登会長の二人が担当している『三田文学』の「新同人雑誌評」においては、『徳島文学』の評価は加藤氏にお任せし、佐々木会長は評価致しません)

これからはより徳島文学協会の会員の皆さまの作品の発表の場として、また徳島の文芸文化の振興のために力を尽くすことができれば幸いです。

今号は旗原理沙子氏を筆頭に、衿さやか氏や石澤遥氏といった、今注目の書き手に小説を寄稿いただきました。



6月8日付徳島新聞朝刊に掲載されました



徳島文学 7号

さらに短詩系では田丸まひる氏や紀野恵氏、涼野海音氏、うっかり氏も意欲的な作品を寄せていただきました。

徳島文学協会の中核を担う会員たちや、若い書き手による小説にもご注目ください。さらに詩やエッセイ、コラム、書評など様々な作品を掲載しています。

今年も独自路線をひた走る『徳島文学』をぜひお楽しみください。

『徳島文学 Volume 8』

二〇二五年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 8』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸誌を発行しています。地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品を無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。

◆応募資格

徳島文学協会会員限定

◆応募方法

全作品**メールにて受付**

縦書きを原則とする。テキスト形式 (.txt) か、Microsoft Word (.doc, .docx) のデータをメール添付で左記アドレスに送付。

society@t-bungaku.com

メールアドレスに「徳島文学 8号応募作品」と記載

◆締め切り

二〇二五年一月十日(金)

◆原稿規定

■コラム

二〇文字×六六行以内
(タイトル・著者名を除く)、
テーマ不問

■一般文芸作品

小説・評論・随筆・詩・
短歌・俳句など広義の
文学作品、および書評
などの未発表作品

◆お問い合わせ

徳島文学協会事務局／
徳島文学制作実行委員会
電話 080-6284-0296
(日曜日を除く九時～十七時)

詳細はホームページにて

<https://www.t-bungaku.com/introduction/bungaku08.pdf>



原稿データの作り方

【表記方法について】

表記方法については標準的な体裁があります。徳島文学協会が発行する『徳島文学』や『とと』では基本的に、小説やエッセイ、コラム等の原稿はこの体裁に準じて校正を行なっています。投稿の際にはこの体裁に準じて、データを作成してください。

●数字は漢数字を使用

●感嘆符・疑問符 ! ?
のあとは全角アキ

●リーダーとケイについては「・・」や「」ではなく「二」分「……」「」とする。

2023年度 徳島文学協会会計報告 (2023年4月1日～2024年3月31日)

繰越金	1,112,351円
収入総計	1,995,881円
支出総計	-2,048,183円
差引残高	1,060,049円

「とと」：古代エジプト文明の知恵の神「トート」に由来する。

文学イベント「私のイチオシ本」を

開催しました

一人一冊お気に入りの小説や漫画などを持ち寄って、作品の魅力をプレゼンする「私のイチオシ本」というイベントを三月十一日に開催しました。プレゼン後の投票で、菊地将史さんの紹介したウォルター・アイザックソン著「コード・ブレイカー」が最も読んでみたい本一位に選ばれました。菊地さんによる同書の書評を掲載します。

コード・ブレイカー

菊地 将史

今、人類は遺伝子治療という新たなステージに到達した。遺伝子治療とはその名の通り、遺伝子レベルでの治療を指すもので、遺伝子とは人間の体を作る細胞の設計情報が記録された領域のことである。本書は当代随一との呼び名も高いノンフィクション作家、ウォルター・アイザックソンの作品で、今回の舞台は遺伝子、そして主役は科学者の世界ではハンデキャップともなり得る女性でありながらも、数多の紆余曲折や多大な困難を乗り越え、DNA(ヒトゲノム)すなわち遺伝子を書き換える技術を開発したことで、2020年にノーベル化学賞を受賞した女性科学者ジェニファー・ダウドナである。本書が大いに注目を集めた理由の一つは、メ

インテリマ「クリスパー」の革新性にある。クリスパーシステムとは細菌がウイルスと戦うために進化させた免疫システムだ。細菌は自らのDNAにクリスパーと呼ばれる反復配列領域を作り、その領域は侵入してきたウイルスの遺伝子コードを記憶し破壊する。この細菌が進化させた巧妙な免疫システム・クリスパーシステムが簡便で精度の高いゲノム編集ツールとなり、編集されたゲノムは将来の子孫に継承され、やがて人類という種を変える可能性さえ出てきた。現在、クリスパー・キャス9(もしかしたら現在さらに進んだものになっているかもしれない)を利用した様々な治療・検出ツールが研究・開発されつつある。鎌状赤血球貧血症、遺伝性血管性浮腫、急性骨髄性白血病、脱毛症など、対象となる疾患のリストは増えつつあ

り、皆さんも聞き覚えのある病名があるにちがいない。最近世界を混乱に陥れた新型コロナウィルスのワクチンもこのクリスパー・キャス9と密接に関連するものだ。本書はこれらの学術的内容だけでも十分面白く密度が濃いのだが、クリスパーの発見にはダウドナ以外にも様々な科学者たちが関わっており、アイザックソンは彼らにもスポットライトを当て、その貢献を讃えている。そんな科学者たちの世界で繰り広げられる人と人との化学反応をドラマティックかつ詳細に描き出した文章は、もはや純文学と言っても過言ではないだろう。とはいえ科学の世界は私たち一般人にはなにも敷居が高く近寄りがたいものだ。よくわからない言葉もたくさんある。しかし、作品を読んだあと、読者は以前よりもずっと科学に関心を持てるようになる。そんなきっかけとなる一冊になると思う。



「コード・ブレイカー」
ウォルター・アイザックソン著
西村美佐子・野中香方子訳
文藝春秋

「エッセイ」 お稽古事からの脱却 ―真の俳人への道

涼野 海音

「先生に選句を受けている」「句会で指導を受けている」と話す方は多い。だが、ただ一方的に指導を受けているだけでは、やはり表現の向上は望めない。句会以外で何ら自ら勉強をしていないのであれば、それは当然のことであろう。

私は二週間に一回、対面式の超結社句会を開催している。その句会で「最近どんな句集を読みましたか。今月の総合誌で共感した句を教えてください」と質問しても、誰も答えない。つまるところ、所属誌しか読んでない、句会以外で自ら勉強できていないのだから。このような姿勢では、いつまで経っても俳句は上達しない。他者の句に感動することなく、良い句が作れる訳がない。大切なことは、所属結社が異なる俳人の句集もしっかり読み、自らの句作の養分にすることである。

また最近では、「師事」や「師系」という言葉が安易に使われる傾向がある。だが、師系以上に「俳句は自得の文学」と心得、作者がどれほど努力したかによって、俳句が作者のものになるかどうか、決まると私は考える(松尾芭蕉、正岡子規、飯田龍太みな「俳句は自得の文学」と言っている)。

したがって、仲間内だけの句会に安住するのみで、何ら自助努力なしに、やたら入選や入賞を望むのは間違いである。

写生や季語のことを本格的に学びたければ、ベテラン俳人の句集から共感句を継続的に筆写すべきである。その気になれば、二週間ほどで一冊の句集から三十句を書き取ることは難しくない。

このような作者自身の地道な努力が、俳人としての「骨格」(基礎)を作り上げるのである。真の俳人を目指すなら、句会での「受動的な学習」で事足りれりという「お稽古事」の姿勢から、早く脱却すべきである。

【エッセイ】 爪の魔法

花里 みつ

自分の爪が好きだ。縦長でこじんまりとしていて、桜貝みたいな色をしている。

爪を意識するようになったのは、小学校四年生の時、学年一の美人と評判の女の子に褒められたのがきっかけだった。

瞳は黄味がかった明るい茶色なのに、つやつやサラサラの髪が黒かったのは何故なんだろうとずっと思っている。

まさにアンティークドールという感じだった。ご両親は日本人だったと記憶しているが、改めて考えてもやっぱり顔のパーツ配置や骨格が日本人ではなかったのだ、遠縁に海外の血が入っていたのかなと思う。

私は幼稚園の頃から彼女を知っていたが、特別親しいというわけではなかった。二人きりで話したことは数えるほどしかないと思う。

こういう流れで話したのかさっぱり覚えていないが、ある時彼女がパッと私の手を取り、「爪、めっちゃ可愛い！羨ましい。見てよ私の爪、横が長いし、四角いし」と言ったことを、鮮明に覚えている。

私は「いやいや、そんな、そんな美しいのに、爪？？」みたいなよく分からない反応をし、ろくにお礼も言えなかった気がする。

正直、私はお世辞にも美人とは言えない顔立ちだと思う。女友達は可愛いと言ってくれるけれど、それはかなり化粧を頑張っている時の顔。骨格は縄文人っぽいけれど顔のパーツは弥生人っぽい。縄文人と弥生人を貶しているわけではないが、高校生や大学生の時はなんでこんな顔なんだろうなと思っていた。

でも、今の今までなんだかんだ顔にメスを入れたりレーザーを浴びたりしていないのは、爪が可愛いからかもしれない。

好きな男の子に顔が不細工だと言われた時も、大学のサークルの新歓コンパで男性陣に「誰か可愛い子居ないの？」と言われた時も、それなりに傷付いていたけれど、ヘラヘラしてその場を流しながら「でも私は、爪が可愛いもんね」と思っていた。

他の部分に自信が持てなくても、爪を見れば可愛いじゃないかと思える。

これは彼女がくれた魔法だと思う。

【詩】 青嵐

せいらん

中本 祐子

わずかに窓を開けたとたん
カーテンがスカートのように舞い上がり
唇をすぼめた風が音を立てて
教室のプリントを吹き散らす

青葉は大胆に風に身を任せている
風を起こさせているのは
実は私だともいうように

春に落ちそこねたゆずり葉が

五月の息吹に振り払われて

青嵐の洗礼を受けた若葉が夏を迎える

【詩】 Blue

青野 佑季

本を読んでいると 声を発することがないが
乾いた唇から出てゆかない思いたちは
やがて青く深い背骨となって
わたしをただしく直してくれる

そして

わたしの声なき声で読む物語が

この臍の緒を通り きみの背骨の一部に

なりますようにと 祈りながら

今日も静かに 頁を捲っている

掲載作品募集

会員の皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

ニューズレター「とと」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。（送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください）

- ◆エッセイ等 八百字以内
- ◆詩 四百字以内
- ◆短歌 三首以内
- ◆俳句 三句以内

「とと」は年二回発行ですが、一回につき掲載できるのは四作品程度です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

ホームページ「作品広場」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。小説、エッセイ、評論、児童文学、詩、俳句、短歌などオリジナルの作品に限ります。

最新掲載作品

現代詩「幸せ」 中本祐子

作品、募集要項はホームページで
<https://www.t-bungaku.com/plaza.html>



みんなの文芸誌「カクヲタノシム」vol.4 この夏発刊



バックナンバー（創刊号・2号）を販売しています。
※3号は完売しました。税込660円＋送料。

4号 税込880円＋送料

会員の皆さまの ご活躍

会員の皆さまが受賞された文学賞をご紹介します。文学賞を受賞された方は事務局までご連絡ください。詳細は「とと」六ページをご覧ください。

- 第十三回北斗賞 佳作 うっかり
- 第二十五回隠岐後鳥羽院大賞 短歌部門 入賞 峯菜実子
- 第八回円錐新鋭作品賞 小林恭二推薦 第二席 涼野海音

「カクヲタノシム」は皆さまの文芸活動を応援するために隔年で発刊しています。ジャンルを問わず、どなたでもご参加いただけます。（参加掲載料が必要）次号の発刊は2026年を予定。たくさんの方の原稿をお待ちしています！！

徳島文学協会
みんなの文芸誌編集委員会

四国大学 第三回

瀬戸内寂聴青春

エッセイコンクール開催

徳島県出身で、数多くの小説やエッセイを残した作家・瀬戸内寂聴氏の文学的功績を後世に伝えるために創設された、四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」が第三回目の開催を迎えます。

徳島文学協会はこの賞に協賛し、大賞作品を文芸雑誌『徳島文学』に掲載します。

◆対象

高等学校在学学生

◆応募規定

- 個人のエッセイ作品
- 一人一作品。四百字詰め原稿用紙換算五枚以内（タイトルを含む）

◆賞

- 大賞：一作品
- 優秀賞：三作品
- 奨励賞：六作品

※各賞の受賞者には、四国大学分野別特別入試B区分の受験資格が与えられる。本入試を受験して入学すると、毎年四十万円の特別奨学金が四年間給付される。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載する。

詳細および応募用紙は「こちらから」

<https://www.shikoku-u.ac.jp/5-essay/03/>



四国大学 第五回

富士正晴全国高校生

文学賞開催

徳島が輩出した著名な作家・富士正晴を顕彰し、さらに新たな才能を発掘するため創設された四国大学「富士正晴全国高校生文学賞」は、今年で開催五回目を迎えます。

徳島文学協会はこの賞に協賛し、大賞受賞作品を『徳島文学』に掲載します。

◆対象

高等学校在学学生

◆応募規定

文芸部誌に掲載された個人の小説作品もしくは個人の小説作品

◆賞

- 大賞：一作品
- 優秀賞：三作品
- 奨励賞：六作品
- 佳作：十作品

※大賞、優秀賞、奨励賞の受賞者には、四国大学分野別入試（文芸部門）A区分の受験資格が与えられる。本入試を受けて入学すると、毎年八十万円の特別奨学金が四年間給付される。

※佳作の受賞者には、四国大学分野別入試（文芸部門）B区分の受験資格が与えられる。本入試を受けて入学すると、毎年四十万円の特別奨学金が四年間給付される。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載する。

詳細および応募用紙は「こちらから」

<https://www.shikoku-u.ac.jp/fmasaharu/05/>



事務局日より 前号作品【エッセイ】藤幸さんのジョギングはとても楽しそうですね。大谷さんの気持ちに共感します。七色さんの願いが叶いますように。【短歌】うっかりさんの蜂蜜はきつとすくく甘いはず。峯さん、私も時々心で話しています。作品広場【エッセイ】福島さん、読み応えがある作品。読後には本居宣長を親しく思えました。これからもみなさんの作品を楽しみにしています。

文学イベント案内

一部の講座に関して、非会員の皆様のご参加が可能になりました。
会場と Zoom 開催の両方で受付しているものもございます。
お申込みの際に、どちらでご参加するかお申し出ください。

徳島文学協会ホームページ
イベント情報



短編小説講座

初心者から、短編小説の書き方を極めたい方まで、どなたでもご参加いただけます。参加者の作品を組上に載せて合評したり、プロの作品を取り上げ講師が講義を行ったりします。

* 未完成作品の提出はご遠慮ください。

- 開催日 ①9月14日(土) ②2025年1月11日(土)
全回19時～20時
- 開催方法 『Zoom』+会場 同時開催(ハイブリッド開催)
- 場所 徳島県立文学書道館
- 参加費 作品提出: 会員3,000円/学生会員1,000円
非会員 30枚程度7,000円
50枚程度10,000円 ※
参加のみ: 会員1,500円/学生会員500円
非会員2,500円 ※
- 提出作品 原稿用紙50枚位まで
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで(先着順)

作品の提出方法

Microsoft Word ソフトで書かれた小説(400 字詰め原稿用紙換算 50 枚程度まで)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

※非会員の方のご参加について

ご参加希望の方は事務局までメールでお申込みください。

【ご参加の条件】

- ①Zoomの基本的な操作ができる(Zoom参加の場合)
- ②事前に参加費を支払う(振込手数料はご負担ください)

■講座参加費と作品提出料は、後日とりまとめた上、請求書と払込取扱票を年2回お送りいたします。

■Zoomでの参加方法がわからない方に、無料でサポートしています。お気軽にお問い合わせください。

ご入会や講座のお申込み・お問合せは 徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県西郡神山町阿野字方子 103
TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com
<https://www.t-bungaku.com/>

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方やプロの作家を目指している方。また、作品を提出した上で講師からの指名があった方を中心に、本格的なスパーリングを行います。参加のみはどなたでも可能です。

* 未完成作品の提出はご遠慮ください。

- 開催日 ①10月12日(土) ②12月28日(土)
全回21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 作品提出: 会員3,000円/学生会員1,000円
参加のみ: 会員1,500円/学生会員500円
非会員2,500円 ※
- 提出作品 原稿用紙50～200枚
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 10人程度
- 締切 開催日の10日前まで(先着順)

作品の提出方法

Microsoft Word ソフトで書かれた小説(400 字詰め原稿用紙換算 50 枚から 200 枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

みんなで歌会

講座の前半は短歌についての講義、後半に各自の短歌を読みあう歌会(短歌は事前提出)を開催します。

講師は歌人の田丸まひるさん。田丸さんは徳島新聞ヤングカルチャーの短歌「三十一文字の小劇場」の選者もされています。学生さんもベテランの方も、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

- 開催日 11月23日(土・祝) 14時～15時30分
- 場所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員・非会員※ 500円
- 講師 歌人 田丸まひる
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで(先着順)

作品の提出方法

お申し込み時に、短歌を一首、事務局宛にメールでお送りください。

【文学賞等に受賞された方はお知らせください】

会員の皆様のご活躍を、「とと」や徳島文学協会のホームページでご紹介します。

小説、俳句、短歌などの文学賞を受賞された方は、事務局までメールでご連絡ください。賞の目安は授賞式に出席する程度です。

ホームページには小説のみ、「とと」には全てのジャンルの受賞実績を掲載予定です。

(紙面の都合上、全てを掲載できない可能性があることをご了承ください)

【メールでお知らせを配信いたします】

毎月1回程度、今後のイベント案内や講座のレポート、出版物の案内など、文学協会にまつわるお知らせをメールで案内いたします。まだメールアドレスをご登録いただいていない方は、ぜひ事務局までお知らせください。